ビジネス科 3年C組

教 科	商 業	科目(単位)	ソフトウェア活用 (3単位)	選択相手科目	原価計算
使用教科書	ソフトウェア活用 (東京法令出版)				
授 業 形 態	通常授業 ・ 分割授業 ・ TT				

※分割授業とは、クラスを少人数クラスに分割して授業を行うことを意味します。

※TT (チームティーティング) とは、複数の教師がチームを組んで指導にあたることを意味します。

1 科目の目標

商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業活動におけるソフトウェアの活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

(2) 企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。

(3) 企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 科目の内容と授業の進め方

- ・4月～7月までは、表計算やデータベースのソフトウェアの活用について学び、学んだ知識を実習で確認し、情報活用能力の育成を目指します。
- ・8月～12月までは、情報システムの開発や業務処理用ソフトウェアの活用について学習を行い、演習時間を多く取り入れ、知識を活用できる情報活用能力の育成を目指します。
- ・1月～3月までは、情報システムの基礎について学び、さらに高度な情報処理について学習します。

3 学習の方法

- ・コンピュータを活用し基本的なシステム構築や運用・管理ができるようになることを目指してください。また、コンピュータに関する知識や専門用語の意味を理解し、使い分けができるようにしてください。
- ・表計算ソフトウェアを有効に活用しデータの表現技法やグラフの表現技法を学んでください。
- ・データベースソフトウェアを活用し基礎的な知識と技術を学んでください。
- ・表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアを活用した基本的なシステム開発ができるように知識や技術を学んでください。

4 課題・補習について

- ・教科書やテキスト、実技課題の点検は定期的に行います。
- ・補習は行いません。積み重ねがとても大事な学習内容となっているので、授業に対して前向きに取り組み、分からない箇所は教師に質問してください。

5 この授業で取得可能な資格 (検定試験)

- ・全商情報処理検定 ビジネス情報部門 2級 (1級)
- ・全商ビジネス文書実務検定 1級・2級

6 観点別学習状況の評価のポイント

知識・技能 (技術)	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>実務と関連付けて、ビジネスのさまざまな場面で役に立つソフトウェアの効果的な活用に関する知識と技術を身に付けている。</p>	<p>ソフトウェアの活用をはじめとしたさまざまな知識、技術などを活用して、企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見しようとしている。また、ソフトウェアの活用が企業活動に及ぼす影響を踏まえ、ソフトウェアに関する技術などによってこれらの課題を解決するための最適な解を導き出し、よりよく解決しようとしている。</p>	<p>企業活動を改善する力の向上を目指して、自らソフトウェアの活用について学ぶ態度を身に付けている。また、組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識を持ち、他者と積極的に関わりながら、企業活動におけるソフトウェアの活用に責任をもって取り組む態度を身に付けている。</p>

ビジネス科 3年C組

教	科	商	業	科目(単位)	ソフトウェア活用 (3単位)	選択相手科目	原価計算
---	---	---	---	--------	----------------	--------	------

7 年間の学習計画

月	単 元 名	学 習 の 内 容	評価方法 (課題等)
4	第1章「表計算ソフトウェアの活用」 第1節「情報の集計」 第2節「情報の分析」 第3節「シミュレーション」 第4節「オペレーションズリサーチ」 第5節「手続きの自動化」	<ul style="list-style-type: none"> データを使用目的にあわせてグループごとに集計したり、項目ごとに集計したりするための方法について学習する。 データを集計した結果を加工して、傾向をつかむための分析や、効率よく商品管理をするための分析をする方法について学習する。 モデルをつくり、条件を変えたり乱数を使用したりして、コンピュータで模擬的に試行(シミュレーション)して予測をするための方法について学習する。 集計、分析したデータを活用して経営に関する問題を発見し、解決策を見つける手法について学習する。 	行動観察 実習成果物 小テスト
5		<ul style="list-style-type: none"> 効率のよい処理をおこなうため、繰り返して実行する操作などを自動化するマクロを作成する方法について学習する。 	前期 中間考査 課題 (振り返り)
6	第2章 データベースソフトウェアの活用 第1節「データベースの重要性」 第2節「リレーショナルデータベースの概要と設計」 第3節「データベースの作成と操作」 第4節「手続きの自動化」	<ul style="list-style-type: none"> ビジネス活動において、情報の収集・整理や管理に利用されているデータベースの概要や重要性について学習する。 データベースのデータを守るためのしくみについて学習する。 データベースを設計するために、データの正規化とE-Rモデルについて学習する。 	行動観察 実習成果物 小テスト
7		全商ビジネス文書実務検定 ビジネス文書部門1級 速度部門1級～2級	課題 (振り返り)
8	第3章「情報システムの開発」 第1節「表計算ソフトウェアによる情報システムの開発」 第2節「データベースソフトウェアによる情報システムの開発」	<ul style="list-style-type: none"> 表計算ソフトウェアのプログラミング機能を利用してシステム開発をするための方法について学習する。 	行動観察 実習成果物 小テスト
9		全商情報処理検定 ビジネス情報部門 2級	前期末考査
10		<ul style="list-style-type: none"> 手続きの自動化とユーザフォームを活用した簡単なシステムの開発を、データベースソフトウェアの実習を通して学習する。 	課題 (振り返り)
11	第4章「業務処理用ソフトウェアの活用」 第1節「グループウェアの活用」 第2節「給与計算ソフトウェアの活用」 第3節「仕入・販売管理ソフトウェアの活用」	<ul style="list-style-type: none"> 企業活動において、組織内の情報共有やスケジュール管理に利用されるグループウェアについて学習する。 	行動観察 実習成果物 小テスト
12		全商ビジネス文書実務検定 ビジネス文書部門1級 速度部門1級～2級	後期 中間考査
		<ul style="list-style-type: none"> 企業活動において、給与や所得税・健康保険料などの計算に利用される給与計算ソフトウェアについて学習する。 仕入・販売・在庫管理などに利用される仕入・販売管理ソフトウェアについて学習する。 	課題 (振り返り)
1	第5章「情報システムの基礎」 第1節「情報通信ネットワークの導入と運用」 第2節「情報資産の保護」	<ul style="list-style-type: none"> 情報通信機器の特徴や、インターネットへの具体的な接続方法について学習する。 	行動観察 実習成果物 小テスト
2		全商情報処理検定 ビジネス情報部門 2級 (1級)	学年末考査 課題 (振り返り)
		<ul style="list-style-type: none"> 情報資産を保護する重要性や方法について学習する。 	